

## 2023年度 第2回 学校運営協議会

1 日時 2023年（令和5年）10月23日（月） 13:40～15:30

2 場所 図書館

3 参加者

古山 貴規	JTB
羽白 裕子	PTA会長
羽田 知世	さくらホーム
平岩 千尋 （オンライン）	学校医
上野 リサ	穴吹情報デザイン専門学校講師
友瀧佳司之	福山市立鞆の浦学園 校長

4 内容

① 授業参観

② 学校説明

◆学校長より取組説明

- ・協議会委員の皆様には、この半年あらゆる面でのご協力に感謝している。
- ・6年生は鞆の浦体操を地域に広め、学習を深めながら活性化を図ることができた。運動会や子ども園で披露するだけでなく、youtubeも活用し、さらなる工夫を加えている。
- ・4年生は防災教育に取り組んでいる。細田教授を招き、トンネル見学を行って、学びを深めている。
- ・9年生は鞆学のまとめの段階に入っている。12月最終報告会には、ぜひご覧になってアドバイスを頂きたい。

◆2年生が合唱「大切なもの」を披露

…みな拍手

③ 質疑・応答，意見交換

◆授業参観の所感を

（古山）

- ・1年から9年生まで、年相応に子ども達がしっかりしてきているのがわかる。9年生が全体的に落ち着いており、前向きに授業に取り組もうとしている。

（上野）

- ・（子ども達の）第一印象が明るくて生き生きとしている。大事なものを失わず過ごしているようだ。

(羽白)

- 子ども達の元気に自分も元気もらった。教室では個々に活動しているように見えるが、自分達の役割を持ってやっているからまとまっている。

(藤井部長)

- 特別支援学級では、ひとりひとりが自分のペースを大切にして授業に取り組んでいた。先生方の関わり方も含めてずっと見ていたかった。

(長友指導主事)

- これだけ地域が協力してくれる学校はない。先生方も、どうやって学びにつなげようかということ工夫している。
- 活動ばかりで目標を見失う、ということにならず頑張ってもらいたい。

(校長)

- 子ども達の頑張りを、どの先生もホームページで更新した。ホームページや地域の掲示板を活用するといった「外」への発信だけでなく、校内のホールに展示するなど「中」への発信も取り組んでいる。

(羽田)

- この前、2年生がさくらホームに来てくれた。特別支援学級の児童に対して、仲間がフォローしあってとても自然に溶け込んで活動していた。特別扱いせずに仲間を受け入れている雰囲気がとてもよかった。

#### ◆学校評価自己評価表について

(校長説明)

- 「郷土愛」「学校は安心して学べる場である」といった項目が90%を超える評価となっている。しかし100%ではないということは、クラスに1~2人、まだ前向きになれない、困っている子がいるということである。そのような子どもたちを担任がしっかり見て、100%を目指したい。
- 「働き方改革」の項目では、「自分達の仕事にやりがいを持っている」が100%となった。1学年1学級の規模の学校では、教材準備が大変であるが、日々子ども達の為に頑張れる先生方であり、感謝している。共に頑張れる環境を作りたい。

(古山)

- 開校5年目を迎え、開校当初の理念を知っている先生方が減った。「原点ファイル」を活用し、先生方が高いレベルで（理念を）共有できていないといけない。運営協議会やPTAの人たちも、学校の取組や理念に対する認識を一つにしていきたい。
- この学校の教育の目玉の一つとして、「英語教育」に力を入れていることである。ALTが常駐し、毎日英語に触れている。これはすごいことである。地域や保護者はそのすごさに気づいていないが、子ども達のリスニング力は高い。リスニングと合わせて文法を伸ばしてもらいたい。

- もう一つの目玉である「韃学」であるが、韃のことは見ることだけが韃学ではない。他所を見て我が町のことに気づけるのも韃学である。比較して気づき、結び付ける機会を作してほしい。
- 福山市の学校でも不祥事が起きている。不祥事が起こると子どもに一生の傷を背負わせてしまう。先生方も疲弊し、学校運営に支障が出る。細心の注意を払って（防止に）取り組んでもらいたい。

（校長）

- 「原点ファイル」という素晴らしいものを残してくれている。常に立ち戻りながらやっていく。
- 不祥事はことあるごとに職員に話をしている。誰もが持つ心の弱さに気付けるようにしたい。またストレスをためず何でも声がかかけあえる職場の雰囲気を作っている。

（上野）

- 先生方は年々変わっていきれいなくなるが、韃の地元で活躍されている人材を集めた「プロボノメンバー」がいる。これまでゆるやかなネットワークを作ってきた。そのメンバーをどんどん活用してほしい。
- 旧韃中時代に、県の「夢プロ」事業でドリム号（舟）を制作してプレゼンした。またなでしこ太鼓を活性化しようと、「鼓童」のメンバーを招聘して教わったことがある。新しいことに挑戦するとともに、これまで残してきたものも大切にしてほしい。

（平岩）

- 学校評価自己評価表に載っているアンケート結果は学校独自のものか？  
→（校長）県と、市と、学校独自のものがある。他校と比べてどうかではなく、経年変化を見ていきたい。
- アンケート結果は他の学校と比較できるのか？  
→（市教委）教育委員会内ではできるが開示はされていない。
- 教職員の働くことへの「やりがい 100%」はすごいことだが、何に対してやりがいがあるのか、深掘りしてみるのも良いのではないか。
- 不祥事について  
子どもの性教育も変わってきた。先生方もそれに向かい合うことが大切だと思う。先生方も「子ども達に教える」ことで、自分に跳ね返り、振り返るきっかけとなると思う。子ども達にアプローチすることで、先生方の意識付けもできると思う。（医師の立場から）私も一緒に取り組みますよ。

（校長）

- 先生方には「子ども達を守る力」を付けてほしい。そのためには先生自身が勉強しないと行けない。勉強することで自己認識が生まれ、不祥事防止につながる。ぜひ力になってほしい。

(上野)

- 性被害のニュースは最近よく耳にする。先生方の中には、強いストレスを受けている人がいる。保護者でも、我が子のことになると一線を越えてしまう人がいる。そんな状況から先生方を守ってほしい。

(校長)

- 度を越した要求に対しては、管理職も交えて丁寧な対応を取っていく。しかしながら「ストレス」は多かれ少なかれ誰しもが持っている。それを不祥事を起こした言い訳にはできない。教職員は、(被害となる子ども達との)出会いの壁が低い。越えてはいけない意思を持ち続けにないといけない。

(古山)

- 性同一性障害に対する学園の認識は？

(校長)

- 30日に、LGBTQをテーマにしたPTA教育講演会を実施する予定である。子ども達からも、自分達の制服などを見直す声があがればいいと思っている。

#### ④ 事務連絡

(教頭)

- 先日、鞆の浦に観光に来られた方からメールを頂いたので紹介する。常夜灯で、鞆の浦学園の6年生4人が自主的に観光案内ボランティアとして声をかけてきてくれてとてもうれしかったこと。自分達の活動を生き生きと楽しそうに話してくれたこと。歴史のある我が町を大切に、誇りに思っている様子が感じられたこと。子ども達と出会ったことで旅が一段と深く豊かになったこと。など

(委員)

…みな拍手

(教頭)

- 第3回は2月20日(火)実施